東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)

道会社。東北、関東、新潟県のほぼ全域と、山梨県、長野県、 両立に取り組んでいます。 平成4年に「エコロジー推進活動の基本理念・基本方針」を制定し、事業活動と地球環境保護の 東日本旅客鉄道株式会社は、昭和62年に日本国有鉄道(国鉄)から鉄道事業を引き継いだ旅客鉄 鉄道事業のほか、バス事業、モノレール鉄道業、生活サービス事業を行っています。 静岡県の一部を営業区域としてい

つくりによる生物多様性への取り組み

を強化しています。 がら、環境保護における社会的責任を果たし、地球環境問題に積極的かつ長期的に取り組む体制 エミッション、沿線環境保全等の各分野で様々な取り組みを進めてきました。また、平成21年に 「環境技術研究所」、平成22年には「環境経営推進室」を設置し、企業としての持続的発展を図りな 平成4年のエコロジー推進委員会発足以来、東日本旅客鉄道株式会社では省エネルギーやゼロ

らの森づくり、②ふるさとの森づくり、③新しい鉄道林プロジェクトの3つを実施しています。 広範な環境に対する取組のなか、森林づくりを通した生物多様性の保全として、①鉄道沿線か

保護意識の定着を目指しています。接体験することで、環境保護意識の向上を狙いとするとともに、継続的な植樹によって、環境接体験することで、環境保護意識の向上を狙いとするとともに、継続的な植樹によって、環境社の鉄道沿線を対象とした植樹活動。参加者自らが植樹活動を行い、自然や環境の保全を直平成4年から各支社で行われている「鉄道沿線からの森づくり」は、東日本旅客鉄道株式会

植樹を行っています。 者など様々な層が参加しており、平成25年度までに約4.7万人が参加し、約32.4万本の 活動には社員のほか、一般参加者、幼稚園児や小・中・高等学校の生徒や学生、自治体関係

し、地域との連携による植樹に取り組んでいます。小学校等と協力したドングリ拾いやポット苗づくりを行うなど、支社ごとにアイデアを凝ら小学校等と協力したドングリ拾いやポット苗づくりを行うなど、支社ごとにアイデアを凝らまた、現在では鉄道沿線の枠を越え、ハイキングイベントと植樹を組み合わせたり、地域の

東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)

●保有鉄道林面積:約4,000ha、1,200林地

防災林:約3,500ha 環境保全林:約200ha 緑地帯:約300ha

- 「ふるさとの森づくり」活動 平成16年から年1回開催
- ●「鉄道沿線からの森づくり」活動 平成4年から各支社で実施
- 東日本旅客鉄道株式会社「環境活動」ホームページ http://www.jreast.co.jp/eco/



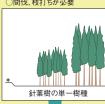
「信濃川ふるさとの 森づくり」の記念碑 (新潟県津南町)

ても強い鉄道林の形成を目指しています

「新しい鉄道林」への更新方法

【従来の鉄道林】

防災機能に加えて木材生産を目的 ○スギ・ヒノキ等、単一の針葉樹 ○間伐、枝打ちが必要



【新しい鉄道林】



土地の気候や土壌にあった 低木、中木、高木を混じえた複数の樹種

スの少ない森林 ○花、紅葉など景観面へ配慮



古くから自然に生育している 樹種の活用 ○植栽前に入念な土壌の整備が

○花、紅葉など景観面へ配慮



北野辺地3号林) ふぶき防止林(大湊線 地吹雪による雪を森林内や森の周囲に溜め て、線路が雪に埋もれるのを軽減します。



・なだれ防止林(上越線 茂蔵1号林) 木の根や幹により、降り積もった雪が線 路上に滑り落ちるのを防ぐことを目的に設 置されました。

成

16年から、

「ふるさとの森づくり」に取り組んでい

・ます。

自

然への

感謝の気持ちを持つとともに、

生物多様性を守り持続可能な社会へ貢献するため

自然に近いかたちで密植・混植して森を再生する

その土地固有の樹木を植え、

地

固

有

0

樹

木

を植えて森を

再

生

ふ

るさとの森

よって、

ご参加頂いています。

づくり

__を実

施。

平

「信濃川ふるさとの森づくり

」を開催

日

帰り

の新幹線と観光等を組み込んだ旅行商品

成 16

年から平

-成21年までは

-成2年からは新潟県及び同県津南町、十日町市、1年までは福島県大玉村や二本松市を開催地として1年までは福島県大玉村や二本松市を開催地として1

小千谷市の小千谷市の

ふるさとの

の協力を得

災と環境保全 0 両立を目指 11 鉄道林 プロ

工

られた鉄道林があります。 防災設備として役目を果たしています。 東日本旅客鉄道株式会社 最 0 初の 沿線には、 鉄道 一林は 樹木の 明治26年に設けられ、 力を利用 して鉄道を雪等から守るために設 災害防止のために、 生きた

%にあたる1 2 在 0 東日本旅客鉄道株式会社が保有する鉄道林は、 箇所に及びます。これらの鉄道 6 万トンを吸収するなど、 林は、 沿線の環境保全にも貢献しています 東日本旅客鉄道株式会社で排 約580 方本、 約 4, 빒 0 「するCO₂ 0 0 hą 0 0.

的に見直 あった複数の樹種を採用し、 こよって、 併せ持っていて、 タートしました。 前の鉄道林は、 20年 現状にそぐわ から 更新時 は、 主としてスギなどの単 防災 期を迎えた樹木を約2年かけて植え替える「新し 線路の防災と沿線の環境保全の両立を目指して、 なくなってきました。 の機能に加えて、 低木・中木・ 高 木材生産による収益も目的とした林業としての の樹種が植えられていましたが、 木を混植することで、 そこで、 現在の植え替えでは、 多様性があり、 い鉄道林」プロジェ 鉄道林のあり 需要の その土地風 生態系と 方を根・ 低下 クト 土に

物 多 様 性 を守 ŋ 持 続 可 能 な社 会 0) 貢 献

生

可能な社会へ貢献するため、 日本旅客鉄道株式会社では、 沿線の各エリアでの地域に根ざした植樹に継続的に取り組 自然への感謝の気持ちを持つとともに、 生物多様性 を守

いきたいと考えています。